

新聞発表表茅七二〇号 七月二十五日

南京及上海七月二十三日陸軍省着電綜合

熱河尚

題に對

する南

京方面

の状況

15

一日本軍熱河及平津地方へ進撃すべき  
 情勢を馴致するやも計らぬとの飛  
 報南京に到着するや政府要人は大に  
 驚き汪精衛何應欽羅文幹ホ子濟  
 琛朱格德等は連日對策を協議して  
 るる。然れども何等具體的の便法  
 もなく張學良に命じ湯玉麟をして  
 防禦せしむとか國際聯盟に訴へる  
 他カ本願主義に依るか等の迷案以  
 外一歩も出でない  
 二信すべき情報に依れば蔣介石は汪  
 精衛等の招電に依り既に漢口を出  
 発目下廬山に在つて林森と熱河  
 事件對策の協議中であるが一兩日  
 中に南京に歸る筈

蔣介石は對曰積極抵抗の意志なく張学良の不明に愛想をつかしてゐると

三、南京政府要人中には今次熱河事件に於ける張学良の不明を責め先年の滿州里に於けるハ蘇國との衝突事件といひ今次の滿洲事變といひ何れも彼の不明に基くものであつて彼がこれ以上政治的に外交的に生命を有することは結局中

華民國を滅亡に導くものなりとの意見有力となつた。二十二日の行政院會議に於ては張学良下野要求に就て激烈なる論争が行はれた模様である

四、南京政府は熱河事件重大化を理由とし孔祥熙及陳銘枢の外遊を中止し速かに南京に來らぬ度しと勸告を發した